

シンポジウム

地域資料の保存と活用を考える

現在、自治体には博物館、資料館、文書館など、色々な形で地域資料の保存と活用をはかる施設が存在しています。他方、NPO や企業、大学などでも、資料の保存と活用をめざす動きが高まっています。

しかしながら、行政・民間の双方ともに地域資料の保存と活用について、さまざまな課題や困難をかかえています。こういった多様な事業主体が、地域資料の保存・公開・活用をめぐる現状と課題を研究し、相互協力のなかで課題を解決し、それぞれの事業に役立てていくことが求められています。

このような状況のもとで、関西において地域資料の保存・活用の事業を実施している団体および歴史学会が共同で、以下のような「シンポジウム・地域資料の保存と活用を考える」を企画しました。

地域資料の保存と活用は、人々の生活の足跡を振り返り未来に生かすために、また「地方の時代」、「自治・分権社会」の形成のためにも、基礎となるべき重要な事業です。このシンポジウムを機に、地域資料の保存・公開・活用をめぐる現状と課題について認識を共有し、相互の協力関係を築き上げる一歩を作り出したいと考えます。

関心のある方々のご参加を心から期待します。

日時： 11月29日(土) 午後1時30分～4時30分 (開場 午後1時)

場所： 大阪歴史博物館 第1研修室(4階) 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅 番出口すぐ

共催： 朝日新聞大阪本社、大阪歴史科学協議会、大阪歴史学会、(財)公害地域再生センター(あおぞら財団)、NPO法人 西山卯三記念すまい・まちづくり文庫、歴史資料ネットワーク (五十音順)

参加費： 500円 (申し込み不要 定員60人)

内容：

- 1 開催趣旨説明 芝村 篤樹氏 (大阪歴史学会代表委員)
- 2 基調講演 「行政文書の保存と活用」 渡辺 佳子氏 (京都府立総合資料館 歴史資料課資料主任)
- 3 現状と課題の報告
吉住 健氏 (兵庫県公館県政資料館)
伊藤 廣之氏 (大阪歴史博物館)
安藤 元夫氏 (NPO法人 西山卯三記念すまい・まちづくり文庫)
鎗山 善理子氏 (あおぞら財団)
海渡 醇夫氏 (朝日新聞社史編修センター(大阪))
- 4 フロアーおよびパネリストによる討論
- 5 閉会あいさつ 庄谷 邦幸氏 (大阪市公文書館長)

全体司会： 亀岡 哲也氏 (滋賀地方自治研究センター理事)
佐賀 朝氏 (大阪歴史科学協議会研究委員長)

お問合せは・・・ (財)公害地域再生センター(あおぞら財団)

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟 1-1-1 三洋ビル 4F TEL:06-6475-8885 FAX:06-6478-5885

Email: webmaster@aozora.or.jp URL: http://www.aozora.or.jp/